

(様式1)

平成17年度 事務事業評価表

記入年月日	平成17年4月20日		記入者		内線	749 - 2214
部 名	土木部	課 名	南土木事務所		課長名	八木博
事務事業名	市道南大野歩道整備事業					
予算上の事務事業名	市道南大野歩道整備事業					
1 総合計画における位置づけ			施策コード	32210		
基本目標	「躍動し 魅力あふれる交流拠点都市」をめざして					
政 策 名	第2章 質の高い都市基盤の整備を進めます					
基本施策名	第2節 安全でゆとりある道路の整備					事業開始年度
施 策 名	第1施策 人にやさしいみちづくり					平成12年度 ▼
2 実施根拠及び関連法令・条例等	道路法(道路の構造)					
3 個別計画の概要	概要					
計画名	交通安全施設等整備事業		歩道整備事業(用地買収を伴わない改修工事)歩道1.5m 2.5mに拡幅 車道9m 7m			
計画年次	12	年度~	17	年度		
4 事業形態の区分	維持・管理・補修 ▼					
5 事業概要	(1) 事業の目的(何のために行うのかまたはもたらしたい成果)					
緊急に安全を確保する必要がある道路について、安全施設等の整備を図り交通事故の防止に努めるもの。 障害者や高齢者をはじめ市民の誰もが使いやすい道路とするため、バリアフリーに配慮した整備を行なう。					(2) 対象(誰、何)	
					歩行通行者 2,760人/日	
(3) 平成16年度事業の内容(活動)・・・いつ、どのような方法で実施した内容(活動)なのか。						
歩道拡幅整備延長L=397.8m 歩道拡幅幅員W=2.5m 総事業費C=55,512						
6 関連・類似事業や他市の状況	交通バリアフリー歩行空間ネットワーク事業として実施。					
7 事業費の推移	[単位:千円]					
年 度	平成14年度(決算)	平成15年度(決算)	平成16年度(決算見込)	平成17年度(予算)	平成18年度(見込)	
事 業 費	62,716	24,570	55,512	34,900	0	
一般財源	14,716	5,570	33,612	17,900	0	
受益者負担金	0	0	0	0	0	
その他の特定財源	48,000	19,000	21,900	17,000	0	
人件費の合計	1,534	1,148	1,322	0	0	
事業コスト合計(a)	64,250	25,718	56,834	34,900	0	
8 事業効率・・・(複数の事業で構成されている場合は、その中の主たる事業)						
主たる事業名	交通安全施設等整備事業			対象名称 (単位)	整備延長(m)	
年 度	平成14年度(決算)	平成15年度(決算)	平成16年度(決算見込)	平成17年度(予算)	平成18年度(見込)	
事業コスト(主たる事業)	64,250	25,718	56,834	34,900	0	
対象数	298	105	398	160	0	
単位あたり経費(円)	215,749	244,933	142,871	218,125	#DIV/0!	
前年度比		1.14	0.58	1.53	#DIV/0!	

9 活動指標・・・実施した内容（活動）の数値化					
指標名 (単位)	歩道整備延長（m）		指標式と指標の説明	整備延長	
	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度（目標）
実績	297.8	105.0	397.8		
目標	350.0	100.0	315.0	160.0	0.0
目標達成度	0.85	1.05	1.26		
10 成果指標・・・対象と意図の達成度を表す指標					
指標名 (単位)	歩道整備延長（m）		指標式と指標の説明	整備延長	
	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度（目標）
実績	297.8	105.0	397.8		
目標	350.0	100.0	315.0	160.0	0.0
目標達成度	85.1	105.0	126.3		
11 個別評価					
(1) 妥当性の評価 【A：妥当である・B：妥当性に課題がある・C：妥当でない】					
A	<input type="checkbox"/>	法令等により実施することが義務付けられている。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	法令等に定められた市の責務を具体化して実施する事業である。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	公益性が高い、または必需性が高い事業である。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	将来にわたって、市民のニーズや行政需要がある。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	税金を投入して実施するにふさわしい事業であり、市民にも説明できる。			
(2) 有効性の評価 【A：有効である・B：有効性を高める余地がある・C：有効でない】					
A	<input checked="" type="checkbox"/>	上位施策の目的を達成するために大きく貢献している。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	課題等の解決や市民生活に大きく貢献している。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	成果指標の実績値とその推移から見て、期待されるような成果をもたらしている。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	事業の対象範囲は適切であり、対象は事業を実施したことによる効果を楽しんでいる。			
(3) 効率性の評価 【効率が良い・B：効率性を高める余地がある・C：効率が悪い】					
A	<input checked="" type="checkbox"/>	単位あたりの経費は適正である。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	これ以上コスト節減の余地がない。			
	<input type="checkbox"/>	受益者負担や補助等の割合に問題はない。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	事業の実施方法や実施体制は適正である。			
(4) 民間活力の導入の可能性 【有・無】					
	<input type="checkbox"/>	業務の一部または全部について、民間で実施する方が経費の節減に繋がる。			
	<input type="checkbox"/>	業務の一部または全部について、民間で実施する方が技術・知識面で優れている。			
	<input type="checkbox"/>	業務の一部または全部について、民間で実施する方がサービス面で優れている。			
	<input type="checkbox"/>	民間では実施していない、または市が実施する方が優れている。			
12 総合評価					
(1) 自動判定結果					
	〔 〕：良好な状態を維持する事業				
	〔 〕：概ね良好な状況である事業				
	〔 〕：見直しを行う必要がある事業				
	〔 〕：抜本的な見直し、休止、廃止を検討すべき事業				
(2) 担当課の課長による評価（今後の方向性）			(3) 課長の評価に関する説明		
拡充・充実	<input checked="" type="checkbox"/>	拡充・充実		高齢者や障害者の増加に伴い今後もバリアフリーに配慮した整備が望まれる。	
	<input type="checkbox"/>	現状維持			
	<input type="checkbox"/>	見直し			
	<input type="checkbox"/>	廃止			
13 成果の向上及び効率性を高めるための方策 高齢者や障害者の利便性を高めるためには占有物件（電柱・照明灯等）の配慮が必要である。			14 課題として認識されたこと 交通バリアフリー法に伴う道路特定事業計画との整合。		
15 二次評価					
(1) 行政評価会議による評価（今後の方向性）			(2) 二次評価コメント		
現状維持	<input type="checkbox"/>	拡充・充実		平成17年度をもって完了予定。	
	<input checked="" type="checkbox"/>	現状維持			
	<input type="checkbox"/>	見直し			
	<input type="checkbox"/>	廃止			